

第29回全国スポーツ少年団軟式野球交流大会催される



昨年度より固定開催地となった北海道札幌市において、8月7日～10日までの4日間開催されました。全国各地で苦しい戦いの勝ち上ってきた各チームはどれも強豪揃いで、観客も圧倒されるほどの熱戦を繰り広げていました。大会中雨に降られる場面もありましたが、選手達のみながるパワーによって、大会を成功裡に終了することができました。なお、試合結果は次のとおりです。

優 勝：常磐軟式野球スポーツ少年団（福島県）

準優勝：中条ブルーインパルススポーツ少年団（石川県）

3 位：長曾根ストロングススポーツ少年団（大阪府）

岡屋スポーツ少年団（京都府）

敢闘賞：静岡豊田少年野球スポーツ少年団（静岡県）

オブスマクラブスポーツ少年団（埼玉県）

母里スポーツ少年団（島根県）

上陽ホークススポーツ少年団（群馬県）

ベストマナー賞：岡屋スポーツ少年団（京都府）



平成19年度 北海道スポーツ少年団登録概要

平成19年度の登録数が下記のとおり確定しました。スポーツ少年団の登録市町村数に増減はなかったものの、他の計数についても減少し、3年連続で減少しました。

平成19年12月16日現在

年度	市町村数	団数	団員数	指導者数	
				単位団	役職員
19年度	173	2,297	51,680	9,445	827
18年度	173	2,343	53,204	9,595	841
対前年度	—	△46	△1,524	△150	△14
全国	1,625	36,230	917,817	200,123	7,234

事務局員

スポーツ振興グループ（生涯スポーツ担当）

課長 山口 淳一（生涯スポーツ総括）
主事 鈴木佐津紀（少年団事業全般）
主事 田村 佐知（指導者養成事業）
主事 高嶋 渉（少年団指導者養成事業）
臨職 山田 直子（少年団庶務全般）

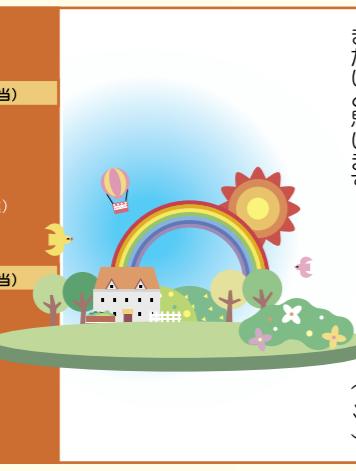
スポーツ振興グループ（競技スポーツ担当）

課長 米良 優二（競技スポーツ総括）
主事 小杉 英俊（体力測定担当）
主事 石黒 堅祐（固体担当）
主事 坪田 圭祐（選手強化事業担当）
嘱託 遠藤 優（選手強化事業担当）

さて昨年はなんと、皆さんからいただいた

おきまし。各管内スポーツ少年団協議会等に登録料等を横領着服していたと言つ、北海道の方法等について確認させていただく事として、今年は空知、上川、留萌、宗谷、札幌の5箇所に出向きました。結果については、概ね良好に処理されており安心しました。これも、適正な執行を心がけていただきたいと思います。そして、各市町村の担当者や指導者の方々は、是非協議会の運営に関心をもつていただきながら協議会を開いていただきたいと思います。

編集後記



そのため、文書による注意喚起や3年に1度は、正副本部長と事務局とで現地に赴き、事務処理の方法等について確認させていただく事として、今年は空知、上川、留萌、宗谷、札幌の5箇所に出向きました。結果については、概ね良好に処理されており安心しました。これも、適正な執行を心がけていただきたいと思います。そして、各市町村の担当者や指導者の方々は、是非協議会の運営に関心をもつていただきながら協議会を開いていただきたいと思います。

北海道スポーツ少年団広報

Quality of Life

Hokkaido Junior Sports Clubs Association

平成20年3月発行

発行者

北海道スポーツ少年団本部長 霜觸 寛

(Hokkaido Junior Sports Clubs Association)

〒062-8572 札幌市豊平区豊平5条11丁目1-1

北海道立総合体育センター内

TEL 011-820-1706 / FAX 011-833-0705

E-mail hokkaido@japan-sports.or.jp

発刊に当って

皆さんこんにちは、私は、北海道スポーツ少年団広報普及部会長 秋野優です。

今年もまた、この紙面を通して皆さんにお会いできたことを大変うれしく思います。

今回は特に、元スピードスケート選手で現在はカーレーサーやタレントそして活躍中の三宮さんから、団員にメッセージをいただきました。また、夏に行われて各種事業の報告や参加した団員の体験談なども掲載しました。そして、この広報紙がスポーツ少年団の普及と活動の啓蒙・啓発につながる事を大いに期待し、発刊に当たってのご挨拶とさせていただきます。

オリリンピアンにインタビュー



三宮恵利子さん【1998年長野・2002年ソルトレイクシティ五輪出場】

（サンミヤ・エリコ）

1974年北海道生まれ。小学4年生のときアイスホッケーからスピードスケートに転向。共栄中学校時代に500、1000mで全国優勝。釧路星園高校でも活躍後、93年富士急行に入社。98年の長野冬季オリンピックに出場。

01年の世界スプリント選手権では総合2位。

02年ソルトレース冬季オリンピックでは日本選手団の旗手を務めた。



Q1. 少年団に入ったきっかけは？

アイスホッケーをしていた私に、1、2年生の担任の先生が「ホッケーをしていても将来が見えないから、スピードスケート少年団に入ってみたら？」と薦められたのがきっかけです。

Q2. 少年団思い出は？

当時、とにかく人数が多く、400mのリンクに1000人くらいが滑っていて、本コースを滑れない時もありました。大会になると少年団の親達が作ってくれる豚汁・甘酒・ココア・うどんなどの温かい食べ物がおいしくて。皆で食べる楽しみでした。

Q3. 少年団に入って良かった事は？

練習や大会で会う、他の学校の友達もたくさんできることです。



Q4. 恩師との思い出は？

一生懸命教えてくれたのはもちろんですが、今思えば、アイスホッケー用のスケートで、スピードスケートを履いている私達について滑り、声をかけてくれていました。凄いことです！

Q5. 五輪に出て1番の宝物

ともにオリンピックに出た仲間たちです。

Q6. 全道の少年団の皆さんへ

道具を大切にしてください。自分のものは自分で片付けるのは当然ですが、メンテナンスもできるようにしましょう。

ちなみに私はスケートと一緒に寝ていました（笑）。それくらい大事でした！そして、少年団活動を通じて、仲間への思いやりや、支えてくれる人への感謝の気持ちを大事にしてください。

スケート少年団のみなさんは、冬にしか出来ないスケートを、どんどん楽しんで欲しいです。そして、スケートを好きになってこれからも記録にチャレンジしてください。応援しています！

Q7. 指導者のみなさんへ

子供達との会話・スキンシップをたくさんとり、個々の得意分野を見つけ、長所を伸ばしてあげるようにしてほしいです。

また、一つの競技ばかりにしほらず色々な競技や体験、経験をさせて下さい。最終的に、全て子供たちのプラスになることと思います。そして、仲間を大切にしたり、周囲への感謝の気持ちを大切にできる子供たちを育ててください。

日独スポーツ少年団同時交流

第34回日独スポーツ少年団同時交流『スポーツは世界共通!』



派遣

コミュニケーションについて悩みましたが、ホームステイ先の家族は僕を本当の家族のように親ってくれ、僕は本当に嬉しく感じました。将来的に指導者になりたいので、この研修で学んだ事を伝えていきたいと思います。
(門別スポーツリーダーズクラブ:古谷 貴之)

ドイツの旅は不安から良すぎるくらいの思い出に変わっていました。友達やホストファミリーと別れる時にあんなに辛いと思うなんて考ておらず、また再びドイツに行きたいと思いました。この交流での友達、家族との思い出を大切にしていきたいです。最後に関わってくれた人たちに感謝です、ありがとうございました！
(清水町卓球:鈴木あきな)

初めての土地で、いろいろなところで人の温かさに触れることができ、ここで一番感じたことは言葉に壁があっても民族の間に壁がないということでした。コミュニケーションに対するイメージはドイツでプラスになりました。
(サフォークランド士別サッカー:川村 翔也)

この交流も終わってみると本当に短く夢のような毎日でした。文化も言語も違う私たちがこんなに仲良くなれて、同じ人間なのだという事を実感しました。この交流の素晴らしさを1人でも多くの人に伝える為、これからも少年団活動を頑張っていきたいと思います。
(稚内リーダーズクラブ:柏木 香織)

みんなと過ごした時間、たくさん笑った事すべてを思い出し「また会える…」そう思うけど涙が止まらなかった。こんなに人の温かさを感じたのは初めてだったかもしれない。本当に楽しい時間を過ごし、とても勉強になりました。
(サフォークランド士別サッカー:藤森 祐至)

ドイツでの出会いはとても貴重なものになりました。これからもいろんな人と会いたいと思うし、たくさんの人に日独交流に参加していい出会いをしてほしいと思います。その為にもこれからもリーダー続けていきたいと思います。今でも覚えています…ドイツでの夢のような3週間！
(風連トランボリン:若松 賢)

「こんにちは！北海道スポーツ少年団リーダー会です！」

みなさんは北海道スポーツ少年団リーダー会(以下リーダー会)をご存知ですか？北海道リーダー会は昭和63年1月に発足しもうすぐ20周年を迎えます。

会員は高校1年生から22歳までの各単位団に所属する団員で構成され、会員数は、高校生5名、大学・専門学校生12名、社会人2名の計19名で活動しています。

① リーダー会が企画、運営しリーダーの資質向上を目指す研修や交流会

「北海道スポーツ少年団リーダー会交流会・体育祭」「北海道リーダー研修会」

② 全国のリーダー会との情報交換や交流

「全国スポーツ少年団リーダー連絡会」「北海道・東北ブロックリーダー研究大会」

③ 日本スポーツ少年団や各事業などのリーダー派遣

「全国スポーツ少年団軟式野球交流大会」「北海道スポーツ少年大会」「北海道スポーツ少年団競技別交流大会」・バレーボール・剣道・卓球

④ 定例会(毎月第2土曜日)

以上のような活動を通じ、今までのスポーツ少年団活動の枠を超え、学校では学ぶことのできない体験をしています。都道府県で活躍するリーダーや指導者に刺激を受け、その経験を今後のスポーツ少年団活動に活かせるよう努力しています。さらにはリーダー会会員も随時募集しておりますのでよろしくお願ひ致します。問い合わせ先は……

別海町スポーツ少年団事務局 立沢 雅彦

北海道入りしてから7日目に別海町役場に到着した選手団。リーダーが消防士だと聞き「隣に消防署がありますが見学しますか？」とたずねると「ありがとうございます、今日はやめておきます」と答えるほどのお疲れモードです。なるべくゆっくりとすごしてもらおう…。それを別海町の歓迎スタイルと決めました。初日は温泉に入り、ファームイン。民泊受入家庭の高校生も一緒に宿泊をしましたが打ちとけるまではいきません。二日目の午前、北海道遺産登録地の『野付半島ツアー』でしたが、バスの往復は爆睡。休憩時間もバスから降りたがらず、午後の「空手体験」は大丈夫だろうか？と心配になるほど…。別海高校の道場で、トレーニングウェアに着替えたドイツ団と、緊張を隠せない別海高校空手道部の部員達が対面。留学経験のある顧問のリードで実技が始まりました。得技を披露したり指導する高校生が良い表情になってきました。「OK！」、「Good！」とコミュニケーションもばっちり！ドイツ団の目も次第に輝きだし、爽やかな汗と比例して清々しい心からの笑顔が花開きました。慣れない英語に、もじもじしていた高校生が、生き生きと指導する姿と、高校生から学ぶドイツ団の真摯な姿が印象的。

『スポーツは世界を結ぶ架け橋』だと改めて思った瞬間です。

3日目の午前は「太鼓体験」。地元の青年たちの体の芯にズンズンと響く太鼓の音に身体を揺らし、積極的に参加する姿が見えました。昼食には、地元の手作りパン屋さんに、ドイツのクリスマス用の菓子パン「シュトーレン」を作ってもらいました。「こんな季節に、しかも日本で食べれるとは！」と喜んでもらいました。午後の「茶道・着付体験」では太鼓と一緒に「静」を体験。正座が、想像よりも苦手ではなかったドイツ団でした。

このように日本の文化と地域の人々とのふれあいをゆったりと楽しんでもらった3泊4日。笑顔とお互いを思いやる心がいっぱい詰まった「別海町の夏」の一コマです。



REPORT 01

第37回北海道スポーツ少年大会に参加して

恵庭剣道JSC 小林 蓮

合格
よくできました

僕が全道スポーツ少年大会で一番楽しかったのは、全道各地からの友だちを増やすことでした。もちろん、同じ班の子とは仲良くなれたり、同じ部屋で寝泊まりした子とは仲良くなれました。このスポーツ少年大会で楽しかったなあと感じた事は、第一にタグラグビーです。タグラグビーは、相手とぶつかったり、タグを取りたりする事が楽しかったし、何よりも試合に出了した事と、その試合で勝てた事です。第二に落葉で絵を作った事です。僕は花火をイメージして作りました。それは今も取ってあります。これを見るとスポーツ少年大会のことを思い出します。第三に大倉山スキージャンプ場へ行った事です。大倉山スキージャンプ場はとても高い場所にあり、街がとても小さく見えました。また、少ない時間でしたが弟のお土産も貰えたり、噴水で水遊びもできました。僕がこのスポーツ少年大会で学んだ事は、協調性の大切さとリーダーシップをとり、みんなをまとめるという事です。全員の心をまとめ、一つにするのが本当のリーダーシップだと言うことに気づきました。リーダーシップだと言ふ立場にいるのではなく、色々な人の心を一つにまとめるはじめは、散策や食事をする時の場所の割り振り方の時に、みんなで協力し、リーダーシップを取るという事が必要だと感じました。二番目は、最後まで一緒にしてくれたリーダー達へのお礼の寄せ書きを書くときにグループの協調性が大切だと思いました。このような出来事から、本当のリーダーとは何かを考えて見ました。それは、立場に置かれている人をリーダーと呼ぶのだと思いました。僕はこのスポーツ少年大会に参加してみんなで一つのことをやり上げる楽しさを知り、リーダーについて考える事ができ、たくさんの思い出ができました。

